

## 朝日新聞編集委員「処分」と安倍元首相

朝日 7日朝刊社会面「本社編集委員の処分決定 公表前の誌面要求」と大きな見出し記事に注目した。一部を紹介する。

朝日新聞社は6日、外交や米国・中国を専門分野とする編集委員の峯村健司記者(47)を停職1カ月とする懲戒処分を決めた。編集委員の職も解く。

安倍晋三元首相が週刊ダイヤモンドのインタビュー取材を受けた後、ダイヤモンド編集部副編集長に公表前の誌面を見せるように要求した峯村記者の行為について、報道倫理に反し、極めて不適切だと判断した。ダイヤモンド編集部から「編集権の侵害に相当する。威圧的な言動で社員に強い精神的ストレスをもたらした」と抗議を受け、本社が調査を実施した。

峯村記者はインタビューを担当した副編集長の携帯電話に連絡し、「安倍(元)総理がインタビューの中身を心配されている。私が全ての顧問を引き受けている」と発言。「とりあえず、ゲラ(誌面)を見せてください」「ゴーサインは私が決める」などと語った。副編集長に断られたため、安倍氏の事務所とやりとりするように伝えた。記事は3月26日号(写真)に掲載された。安倍氏はインタビューのなかで、核共有の議論をタブー視しないなどと発言している。

峯村記者の行為について本社は、政治家と一体化して他メディアの編集活動に介入したと受け取られ、記者の独立性や中立性に疑問を持たれる行動だったと判断し、同編集部へ謝罪した。朝日新聞社執行役員ゼネラルマネージャー兼東京本社編集局長は「取材対象との距離の取り方を誤り、読者からの信頼を揺るがす大変重い問題と受け止めています。報道倫理についての指導を改めて徹底します」とコメントしている。

記事を読んで、編集委員の要職にある人物が、ジャーナリストとして初歩的な誤りで処分されたことを知り、正直なところ驚いた。ネットを検索すると、峯村健司氏「朝日新聞社による不公正な処分についての見解」という文書を見つけた。この間の経緯を詳しく説明し、会社は私の説明について耳を傾けようとせず、当初から「処分ありき」の姿勢でしたと不公正な処分を批判している。ジャーナリストとしての行為を「自己弁護」するだけでなく、外部の賞をもらい「朝日新聞の良心」などと自賛までしている。

2014年の朝日新聞「不祥事」を思い起こした。あのとき長年の読者の一人として、危機感から「声」に投稿した。すぐに連絡があり掲載された。今回も朝日新聞の信頼を揺るがす重大問題と考えて、ふたたび「声」に投稿したが、今のところ反応はない。

(2022年4月12日)

